

授業科目：歯科薬理学，薬理学

担当教員：小林 真之，藤田 智史

|                            |  |
|----------------------------|--|
| 授<br>業<br>の<br>ね<br>ら<br>い | <p>薬理学講座における大学院での最終目標は、広い視点で客観的に物事を考える能力を養うことにより、将来研究者として独立できる能力を身につけることである。そのため、基礎的な神経科学の研究手法を学びつつ、先端的な研究課題に取り組む。主要な研究テーマは、下記の通り顎口腔機能の神経メカニズムの解明である。研究に対する自発的な姿勢と忍耐力、共同研究を行う上での責任感と協調性が求められる。研究成果については、国際的な学術雑誌に発表するとともに、国際学会で発表する機会を積極的に提供し、海外の研究者とのコミュニケーションを通じて研究の楽しさに触れる機会を設けている。</p> |
| テ<br>ー<br>マ                | <p>テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 大脳皮質感覚野における情報伝達のメカニズムの解明</li><li>2) 1) で明らかにしたメカニズムに対する各種薬物の修飾作用の解明</li><li>3) 味覚，痛覚などの口腔感覚機能の神経生理学的手法による研究</li></ol>   |
| 内<br>容                     | <p>内容：</p> <p>研究手法は、ヒトにおける脳機能イメージングから遺伝子改変動物を用いたパッチ・クランプ法やカルシウムイメージング法まで多岐にわたる。大学院生は、自らの研究テーマについて理解すると共に、講座内で行われている他の実験についても理解を深めることにより、神経科学全般の知識を身につける。研究成果については、国内の学会で発表してそのスキルを身につける。また、知識習得と語学教育を含めた <b>Journal Club</b> に参加することで、4年次における海外での国際学会での発表や将来の海外留学に備える。</p>                 |
| 成<br>績<br>評<br>価           | <p>成績評価：</p> <p>教室内セミナーおよび個別チーム内での研究発表状況と、その成果物の完成度によって行う。</p>   |
| そ<br>の<br>他                | <p>その他：</p> <p>口腔機能を制御するのは他ならぬ「脳」であり、近年歯科における脳科学の重要性はますます高まっている。研究成果は、将来臨床に還元されることを念頭に研究に取り組んで欲しい。</p>   |